

中国の林業・木材政策の最新動向

2026年1月

概要

中国の林業及び木材産業の発展は、国家の「ダブルカーボン—2030年カーボンピークアウトと2060年カーボンニュートラル」戦略と資源安全保障の2方針に大きな影響を受けており、資源の有効利用と生態的価値の実現が求められている。国際貿易障壁が激化し、国内需要構造が変化していることを背景に、政策としては科学技術イノベーション、木質パネル生産許可の詳細管理、森林の持続可能な運営体系構築が推進されている。立法機関は林業・草原産業が基幹産業であると明確に位置づけ、業界でもグリーンファイナンスや原木先物などのツールを利用し始めている。本報告書は、最近の政策動向、輸出入貿易データ及び市場の状況を整理し、本業界が外国の関税の変化と国内の構造転換にどのように対応しているかを示したものである反映したものである。

森林に関する文書体系を整備し、持続可能な経営を推進

中国国家林業・草原局は「制度・メカニズム・能力・普及」の四位一体の推進体系を構築する計画である。これは「国連森林措置 United Nations forest instrument」と中国の森林の持続可能な運営を融合し、中国森林資源の課題に対応するためである。課題とは、総量では増加しているものの、質が低い、構造が最適化されていない、平均蓄積量が世界水準を下回るなどである。本政策は、制度面ではグローバルな森林目標を中国の実情に即した計画基準と行動指針へ展開することを重視している。これには国連森林措置履行のためのロードマップ策定や「森林経営プラン作成技術規範」の改訂が含まれる。生物多様性保護・民生福祉・気候変動対応といった国際的課題を中国の技術条項に落とし込み、「目標をすり合わせる→基準に転換→内部評価」というサイクルを制度として形成するとしている。

国の森林体系の実施体制や業界の対応面では、連携・協力メカニズムを構築して常態化し、これにより国連措置履行部門と持続可能な運営パイロット事業間の融合を図る。特に北京市西山の多機能経営、河北省塞罕壩(サハバ-)という森林形成困難地での植林、吉林省汪清のトラ・ヒョウとの共生型経営、甘粛省小隴山の天然林構造最適化といった地域モデルを融合し普及させる。同時に、本政策では階層別・分類別の人材育成体系と「コンテンツ精選—チャンネル展開—プログラム設定」という展開戦略を打ち出している。その意図は、国際ルールを熟知した実践的専門チームを育て、中国の森林持続可能な経営における経験を国際的影響力を持つ公共財へと転換することである[1]。

木材/竹産業による「ダブルカーボン—2030年カーボンピークアウトと2060年カーボンニュートラル」戦略の推進とグリーン低炭素への転換

国の「ダブルカーボン」戦略のもと、木材/竹産業は重要な「グリーンカーボン貯蔵庫」かつ代替的排出削減源と位置付けられている。製品中に炭素を長期的に固定化し、高排出建材の代替とすることにより、生態系と経済効果の相乗効果が可能である。業界ではかなり整った炭素計量基準体系を構築しており、「温室効果ガス排出量算定方法と報告要件 第31部：木材加工企業」及び「木/竹製品カーボンフットプリント

評価ガイドライン」などの基準も発表した。これらは、企業の炭素排出量算定と製品炭素含有量測定といった技術課題を解決し、グリーンファクトリの建設、カーボンラベル実施、グリーン調達における確かな根拠となっている。

現在、中国の木/竹産業は技術革新を通じてスマート化とグリーン化を推進しており、省エネ乾燥、環境配慮型接着剤、廃棄資源循環利用技術の重点開発を進めるとともに、スマート製造により生産性と排出削減能力を向上させている。今後は、資源の高付加価値活用を中心に、低炭素基準体系をさらに整備し、グリーンな調達と消費を誘導するグリーン化支援策を検討策定し、低炭素のリーディング企業を育成し、効率的で協調的な近代的産業体系を構築するとしている[2]。

南方の集団所有森林地帯の科学技術による活性化

中国では 貴重木材対外依存度が 90%を超え、南方の集団所有森林経営の潜在力が十分に発揮されていないという現状を踏まえ、中国林業科学研究院熱帯林業研究所は集団林権（森林・樹木・林地の所有権と使用权）制度改革をさらに推進するため、技術イノベーションを通じて森林地区発展のボトルネックを解消しようとしている。同研究所は沈香、降香黄檀-ニオイシタン、楠木- Phoebe zhennan など適応性が高く成長の速い優良新品種を選定育成し、木材として利用できるまでの期間を約 30%短縮している。さらに「貴重木材+林下経済（木材以外の森林活用）」の複合経営モデルと林分構造の動的調整技術を開発したことにより、林業従事者が自主経営で直面する品種選択と科学的植栽という難題を根本的に解決した。

普及と産業への影響としては、同研究所は「育種—植栽—管理—利用」の全段階にわたる技術サービス体系を構築した。2017 年以降、華南地域では約 50 万ムー（約 33,333 ヘクタール）においてブラックウッド（中国名：黒木相思メラノキシロンアカシア）無性繁殖系新品種を普及させるとともに、ドローンやレーザーレーダーなどを活用して森林形成困難地と病害虫防除という難題を解決してきた。これら事業は国の重点研究開発計画に組み込まれ、「政策誘導+科学技術サービス+市場マッチング」という手法により、森林経営を経験主導型からデータ活用型の精密育成へ転換しつつあるが、これは国家の木材安全保障能力向上と林業従事者の収入増加というエコ経済のウィンウィン実現を目指すものである[3]。

木質パネル生産許可証実施細則が正式公布

高リスク製品の品質安全源流管理を一層強化するため、「中華人民共和国工業製品生産許可証管理条例」、「中華人民共和国工業製品生産許可証管理条例実施弁法」等の規定に基づき、市場監督管理総局は「工業製品生産許可証実施細則通則」及び 24 種の製品の生産許可証実施細則の改訂を行った。このうち、「木質パネル製品生産許可証実施細則（一）（合板製品の部）」、「木質パネル製品生産許可証実施細則（二）（細木工板（ブロックボード）製品の部）」は、中国林業科学研究院木工研究所国家木質パネル・木/竹製品品質検査センターが中心となって改訂し、正式に公布された。新たに公布された通則及び細則は 2026 年 4 月 1 日から施行され、従来の通則及び対応する細則は同時に廃止される[4]。

参考文献

- [1] 国家林業・草原局 国家公園管理局。 森林文書推進体系を構築、森林のサステイナブル経営を推進 [EB/OL]. <https://www.forestry.gov.cn/c/www/lcdt/656317.jhtml>
- [2] 国家林業・草原局 国家公園管理局。 緑の炭素貯蔵庫を活性化、木/竹産業がカーボンニュートラル戦略を推進 [EB/OL]. <https://www.forestry.gov.cn/c/www/lcdt/656100.jhtml>
- [3] 国家林業・草原局 国家公園管理局。 科学技術による活性化、南方集団林区の「貴重な資産」を活用 [EB/OL]. <https://www.forestry.gov.cn/lyj/1/ggzyxx/20251230/655268.html>
- [4] 中国林業科学研究院木材工業研究所。 木材工業研究所国家木質パネル品質検査センターを中心に改訂した木質パネル生産許可証実施細則が正式公布 [EB/OL]. <https://mp.weixin.qq.com/s/PHWr59pX-rfE4jBnnMd3FQ>